

ユビキタスネットワーク時代における 電子タグの高度利活用に関する調査研究会(第1回) 議事要旨

1 日時

平成15年4月15日(火)10:00~12:00

2 場所

三田共用会議所 第4特別会議室

3 出席者

(1) 調査研究会構成員(50音順、敬称略)

相上 義明、青木 昭明、縣 厚伸、秋山 正樹、有薊 徹、石渡 恒夫、伊土 誠一、今井 秀樹、岩沙 克次(代理)、内永 ゆか子、瓜生 直樹、大山 永昭、金子 郁容、川辺 守彦(代理)、國井 秀子、児玉 駿、齊藤 忠夫、坂村 健(代理)、篠本 学、高岡 博史(代理)、築山 宗之(代理)、徳田 英幸、西村 清司、服部 勝至(代理)、堀田 徹哉、松尾 義武(代理)、村上 輝康、村上 仁己、安田 靖彦、大和 敏彦、若尾 正義、和田 英一

(2) 総務省(事務局)

加藤総務副大臣、石原大臣官房技術総括審議官、鬼頭電波部長、稲田技術政策課長、武井情報流通振興課長、金谷通信規格課長、富永移動通信課長、渡辺研究推進室長、岡野マルチメディア移動通信推進室長

4 議事

(1) 開会

- ・ 副大臣挨拶
- ・ 構成員紹介

(2) 調査研究会の開催要綱について

資料1-1に基づき、本調査研究会の開催要綱について事務局から説明を行い、了承された。

(3) 調査研究会の公開について

資料1-2に基づき、本調査研究会の公開について事務局から説明を行い、了承された。

(4) 座長選任

- ・ 開催要綱に基づき、座長に齋藤委員が互選され、座長代理に村上委員が指名された。

(5) 議事

調査研究会の運営方針について

資料1-3に基づき、調査研究会の運営方針について事務局から説明を行い、了承され

た。

主な意見は、次のとおり

- ・ 開催要項に、『モノや人の識別に利用される電子タグは…』とあるが、こう書くと電子タグが個人を特定する様に思われる恐れがある。この研究会では『モノや人の識別するタグ』を検討すると思われても良いか。
- ・ ユビキタス社会においては、誰が何をといった人とモノの連携が大きな課題の一つと考えられている。もちろんプライバシー等の問題も課題になるが、必ずしも人や個人を特定するというのではなく、人と緩やかに結びつくものをどうやって扱っていくかというところを含め、議論をいただきたいと考えている。
- ・ 遊園地などの入場券を買った場合、特定の個人の識別ではなく、緩やかに『人』とバイディングされているという理解でよいのではないか。
- ・ 『人』という部分は『利用者』と読み替えていた。一生付いてまわるというよりは、学校に入学したら、その学校にいる期間中、遊園地に入ったらその期間中というイメージではないか。個人情報とリンクさせるかどうかは必要に応じて個人が選ぶということだと思う。
- ・ 『モノや人の識別に利用される』という部分は削除しても研究会の意図は変わらないのではないか。

調査研究会の進め方について

資料1 - 4に基づき、調査研究会の進め方について事務局から説明を行い、了承された。

また、『無線システムワーキンググループ』及び『ネットワーク利用ワーキンググループ』の二つのワーキンググループを設置することが了承され、各々のグループ長に、今井委員、徳田委員が指名された。

電子タグに関する技術の現状と利用の動向等について

資料1 - 5、資料1 - 6及び資料1 - 7に基づき、電子タグの現状と動向について、伊土委員、内永委員、秋山委員から説明が行われた。

主な意見は、次のとおり

- ・ 電子タグは教育、文化、福祉等の社会システムとしも役に立つ可能性を持っている。技術的な可能性だけでなく、社会的応用の視点から、システムとしての安全、利便性をビジョンの中に描けるよう議論していきたい。
- ・ 高価なもの、管理責任のあるものに電子タグを使えば使うほど、現在のスマートカードのチップとの違いがなくなると思う。今までのスマートカードの流れでは、機能を削っていった失敗し、少量多品種生産となっている。そのあたりも踏まえておく方が良いと思う。
- ・ 接触・非接触ICカード、電波タグは、連続スペクトル上にあると思うので、そのあたりの議論は利用のシーンによって使い分けることになると思う。まずは、ネットワーク利用ワーキンググループでご検討していただきたい。

その他

事務局より次回会合は、5月中旬を目途に調整の上、別途お知らせする旨の説明がなされた。

(10) 閉会

5 配布資料

- 資料1 - 1 「ユビキタスネットワーク時代における電子タグの高度利活用に関する調査研究会」開催要綱
- 資料1 - 2 調査研究会の公開について(案)
- 資料1 - 3 「ユビキタスネットワーク時代における電子タグの高度利活用に関する調査研究会」運営方針(案)
- 資料1 - 4 調査研究会の進め方について(案)
- 資料1 - 5 「ユビキタスネットワーク時代における電子タグの高度利活用に関する調査研究会」ワーキンググループ構成員名簿(案)
- 資料1 - 6 「NTTにおける電子タグと通信」(伊土委員)
- 資料1 - 7 「電子タグの現状と今後の展開に向けて」(内永委員)
- 資料1 - 8 「ユビキタス時代をささえる無線タグ」(秋山委員)

(以上)